一

問一　1　蓄積　2　皮膚　3　遠隔　4　喪失　5　格(挌)闘　6　輪郭(廓)　7　魅惑

問二　肉体的な感覚を意識下に潜在させた身体。（一九字）

問三　脳内で物質的身体を超えて表象される身体像は、外部と自己との境界線を常に調整し、流動的に拡張すること。（五〇字）

問四　脳の神経細胞により、自己の身体は無自覚的に、他者の現実の身体や虚構の身体にも反応し、他者の身体像に同一化するということ。（六〇字）

問五　身体や自己が情報化される社会の中で、ふと不快感を抱く私たちは、苦痛を感じる自己の身体性を意識化させ、私たちと同様に虚構であるゾンビに自らの身体像を投影して同一化し、互いの虚構と現実を流動的に往復させてくれるゾンビ作品に魅力を感じているから。（一二〇字）

© 河合塾　2024 年

二

問一　正統的なものは、作品自体として一義的に実在するとみなすこと。（三〇字）

問二　作品を唯一無二の本来の姿として保存しようとすれば、自ずとその姿から逸脱した活用が生じてしまうこと。（四九字）

問三　文化は、多様な要素の位置関係や、それらの間に働く動的な力学に支えられていること。（四〇字）

問四　寮歌の普及に携わる実際のＯＢたちの、だみ声、蛮カラスタイルで歌う姿が、寮歌の正しいあり方に合致するように思えるから。（五八字）

問五　音楽作品の本来の姿という概念は、文化的な力学の中で、さまざまなコンテクストやメディアを通じて歴史的に形成され、変容しながらそのつど立ち現れてくるという見方。（七八字）

© 河合塾　2024 年

三

問一　ハ　本当に詠めるのだろうか
　　ニ　そのまま帰ってしまった
　　ホ　かわいいからであろうか

問二　波音にまさる泣き声ならばよほどの大声だろうという、歌の大げさな表現に対する皮肉。（四〇字）

問三　返歌をもらわないでは帰れないが、催促するわけにもいかない、いたたまれない心情。（三九字）

問四　あらかじめ用意し、得意がって披露した歌の出来が悪く、子供が遠慮がちに披露した返歌がすぐれていた。（四八字）

© 河合塾　2024 年

四

問一　a　およそ　b　けだし　c　のみ　d　しかり　e　ほしいままにして

問二　どうしてただ農民を平安に治める官吏としての職務をおろそかにするだけであろうか、いやそればかりではなく、またその上に農民が納める税を盗みとるのである。

問三　わがたみをいかんせん。

問四　朝から晩まで職務に腐心尽力し、訴訟や徴税を公平に処理して民に嘘偽りの心や憎しみを抱かせず、報酬にあった仕事をし、民衆の怒りと処罰を恐れ行動を慎む人物。（七五字）

© 河合塾　2024 年